

【切手デザイン／戦国武将 真田幸村とゆかりの地 紀州九度山】

戦国武将 真田幸村とゆかりの地 紀州九度山

いざ、決戦の地へ

幸村

真田三代ゆかりの里・九度山町

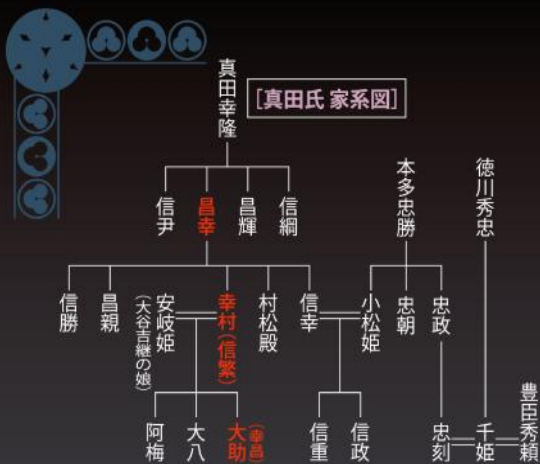
K U D O Y A M A



- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。



戦国武将 真田氏家系図と真田十勇士



戦国武将真田

三代



くどやまと真田十勇士

一族を分かち、知略を尽くして戦ったあと…

昌幸は戦国大名として自ら築いた上田城を後にする幸村は、武将として生きる道を断たれ、蟄居という形で見守る身となり、長男信之に生活の苦しさを語る手紙なども送っている。慶長16年(1611)、願いもかなわず九度山で病死する。享年65歳。

真田昌幸

世の動きに合わせて果敢に立ち向い、小国であった真田家を戦国大名として躍進させた知謀の将。九度山にあつては、赦免によって国許に戻れる日を待ちわびる身となり、長男信之に生活の苦しさを語る手紙なども送っている。慶長16年(1611)、願いもかなわず九度山で病死する。享年65歳。

真田幸村 (信繁)

家臣や子ども達に囲まれ、地元の人とも信頼関係を築いた九度山での生活。父・昌幸とは死別し申うこととなりますが、豊臣方の誘いに応じて大坂城へ向かう時、見張り役のいる立場でありながら、地元の人々の協力があった九度山を脱出できたと言われ、幸村に從属した者もあつたそうです。

真田大助 (幸昌)

慶長7年(1602)、幸村が36歳の時、長男大助が誕生。九度山での隠棲生活のなかで生まれ育つた大助ですが、幼い時から父と共に川の川で水練を試みたり、文武に励んでいたようです。幸村が大坂入城の際に同行し、最後は、慶長20年(1615)、大坂落城となった時、秀頼の傍で自刃します。



<p>射撃の達人(種子島銃)</p> <p>寛十蔵</p> <p>NIPPON 82</p>	<p>幸村の郎党</p> <p>穴山小助</p> <p>NIPPON 82</p>	<p>幸村の右腕的存在</p> <p>海野六郎</p> <p>NIPPON 82</p>	<p>伊賀流忍術の達人</p> <p>霧隠才蔵</p> <p>NIPPON 82</p>	<p>十勇士で最も人気のある甲賀流忍者</p> <p>猿飛佐助</p> <p>NIPPON 82</p>
<p>元海賊の頭領</p> <p>根津甚八</p> <p>NIPPON 82</p>	<p>鎖鎌・槍の達人</p> <p>由利鎌之助</p> <p>NIPPON 82</p>	<p>火薬武器の製造</p> <p>望月六郎</p> <p>NIPPON 82</p>	<p>元鈴鹿山中での山賊</p> <p>三好伊三入道</p> <p>NIPPON 82</p>	<p>十勇士で最年長</p> <p>三好清海入道</p> <p>NIPPON 82</p>

- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
- 写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。

